



【広島】広島県トラック協会(小丸成洋会長)は8月22日、労務問題研修会を

協ト広

SAS対策など聴く

健康状態把握し指導教育

開き、定期健康診断のフォローアップと睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策について学んだ。

はじめに、喜多村久至副会長が「近年、健康起因による交通事故が増加傾向に

「労務管理の一助にして欲しい」と喜多村副会長

ある。ドライバーの高齢化が懸念される中、健康状態の把握と指導教育は重要な課題だ。労務管理の一助にして欲しい」と、研修会の趣旨を述べた。

長)の黒田悦子保健師が、定期健診のフォローアップについて説明。全ト協からの委託で構築した「運輸ヘルスケアナビシステム」の内容を詳しく紹介し、活用を促した。

2部では、同法人の作本貞子副理事長が「トラック事業者におけるSAS対策のスタートから運用まで」と題して講演。検査から継続的な治療まで、段階的な取り組みの必要性を説いた。

(矢野孝明)

(OCHIS、武田裕理事